

シラバス

授業科目名	年度	学期	開講曜日・時限	学部・研究科など	担当教員	配当年次	単位数
社会学演習(2)(5)	2020	通年	火5	文学部・社会学専攻、 社会情報学専攻(情報コミュニケーションコース)	倉本 由紀子	3年次配当	4

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

本演習では、グローバルな問題について調査研究を行います。

<研究対象>

グローバルな社会現象、海外で起こっている出来事、多くの国々に共通の社会問題、国際社会に関する事柄などを研究対象とします。たとえば国による幸福度の違い、先進国と途上国との貧困、格差、子どもの問題、グローバルな地球環境、国際連合やユニセフなど国際機関の活動などです。

<演習の運営方針>

グループを単位としてプロジェクト型の授業を行います。受講者が各自の興味関心をもとにグループを作り、自分たちで研究対象を選び、教員のガイダンスのもとに調査を行います。調査結果をプレゼンし、論文にします。

科目目的

- (1) 知識：調査対象とする国や社会において、各調査グループが問題としている現象がなぜ起こっているのかについて、当該社会や国家の社会・政治・経済的状況を考慮して、理解する。
- (2) 調査関連技能：先行研究の渉猟、調査プランの策定、さらには実際の調査を自らの手で敢行する力をつける。
- (3) 海外対応能力：母語が異なる相手、異なる文化を持つ人々に対して語りかけ、質問をする能力、さらに不慣れな見知らぬ土地であって積極的に調査活動をおこなうメンタリティを涵養する。
- (4) プレゼンカ、論文執筆力：調査結果を整理し、問題とした社会現象への理解を進めた後、それを他者に分かりやすい形にしてプレゼンをする。また、自分が得た理解をもとに、学術論文を書く技能を身につける。

到達目標

授業計画と内容

1. クラス・オリエンテーション&イントロダクション
2. リサーチ・プロジェクト概要:テーマ設定、文献検索、調査プラン策定、調査実施、分析、まとめ。
リサーチ・テーマの選定：グループ分けと作業開始。
3. リサーチ・テーマの選定：グループ・ディスカッション(1)
4. リサーチ・テーマに関するミニ発表
5. リサーチ・テーマの選定：グループ・ディスカッション(2)
6. リサーチ・テーマの決定：グループ・ディスカッション(3)
7. リサーチ・テーマの発表：グループ発表
8. 先行研究を調べる
9. 先行研究を調べる+初期調査プラン策定
10. 先行研究を調べる+初期調査スケジュールを立てる
11. 先行研究をまとめる+調査の段取りをつける
12. 初期調査を行う(1)
13. 初期調査を行う(2)
14. 初期調査結果をまとめる
15. 前期のまとめと後期の課題確認
16. 本研究調査計画：質問項目の再設定
17. 本調査プラン策定
18. 本調査スケジュールを立てる+調査の段取りを付ける
19. 本調査実施
20. 本調査結果をまとめる
21. 本調査結果をまとめる：大まかな議論の設定
22. 本調査結果をまとめる：完成
<プレゼンテーションと論文執筆>
23. 調査結果プレゼンテーション(1)：第一グループ
24. 調査結果プレゼンテーション(2)：第二グループ
25. 論文(報告書)の書き方(1)：論文の構造を知る
26. 論文(報告書)の書き方(2)：議論の仕方を学ぶ
27. 論文(報告書)の書き方(3)：論文を完成する
28. 最終プレゼンテーション

授業時間外の学修の内容

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

読書など、授業中に提示される課題は、必ずやってきて下さい。それが知識獲得と理解を助けます。また、プロジェクトは前期中頃から動き始め、後期になって本格化しますが、プロジェクト作業の遂行に授業外の時間を必要とすることもあります。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

成績評価の方法・基準

成績評価の方法・基準（備考）

授業参加度50%、授業での課題提出15%、プレゼンテーション20%、報告論文提出15%。半期（14回）で4回を越えて欠席すると単位が出ません。

なお、4年次以上で履修する社会学演習（5）は卒業論文あるいは卒業研究論文の合格をもって単位が与えられます。この点をくれぐれもご注意ください。

課題や試験のフィードバック方法

課題や試験のフィードバック方法（その他の内容等）

アクティブ・ラーニングの実施内容

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他の内容等）

授業におけるICTの活用方法

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

【実務経験有の場合】実務経験の内容

【実務経験有の場合】実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

ギデンズ、アンソニー、2010、『社会学 第五版』、而立書房。
 高柳彰夫・大橋正明編著、2018、『SDGsを学ぶ: 国際開発・国際協力入門』、法律文化社。
 デヴィッド・ヘルド、2002、『グローバル化とは何かー文化・経済・政治ー』法律文化社。
 原田順子・北川由紀彦、2017、『グローバル化と私たちの社会』NHK出版。
 山田剛史・林創、2012、『大学生のためのリサーチリテラシー入門』、ミネルヴァ書房。
 佐藤郁哉『社会調査の考え方』上下巻、2015、東京大学出版会。
 西山敏樹・常盤拓司・鈴木亮子、2015、『実地調査入門 社会調査入門』慶応義塾大学出版会。

その他特記事項

クラスでは、できるだけ自由な雰囲気を作り、意見交換や議論をしやすい環境を作ります。また、自分が時間と努力を投資することで、素晴らしい調査研究ができるということを学習する機会を提供できればと考えています。

毎回のグループ・ワークが中心となります。自分の意見を述べるなど、グループに貢献、共に何かを作り上げる気持ちと態度で臨んで下さい。

参考URL

コメント1

コメント2

コメント3

コメント4
